

10月に向けて

代表取締役 三田雅憲

本日は、大阪大学名誉教授で立命館大学の湯浅先生の「韓非子」に学ぶ「優れたリーダーの掟」について学びたく思います。

「韓非子」とは、法による国家の統治を体系的に説いた韓非の著書です。韓非は中国の春秋戦国時代に現れた人物で、秦の始皇帝などにも影響を与えたとして知られています。韓非はリーダーに「自分の実態をさらけ出さないように」と勧めます。例えば、君主(国や地域または権限を持つ人物)が日頃から自分の好き嫌いや願望を口にすれば、臣下はいらぬ忤度をして君主に気に入られるようなことしか言わなくなります。また、せっかく優れた考えやアイデアを持っていたとしても君主とは異なる意見は発言しづらくなります。これにより国に新しい何かを生み出す機会が失われてしまうのです。しかし、君主が好むもの嫌うものを語らなければ臣下は余計なことを考えずに精勤するようになります。リーダー個人からしてみれば、周りが何んでもかんでも自分に合わせてくれた方が迅速な意見決定が出来るために、好都合かもしれません。しかし、こうした独裁的なリーダーシップは組織内にイエスマンを大量発生させたり、部下の自主性が発揮されなくなったりリーダーに負担や責任が一点集中したりと、組織内に様々なリスクを招きます。そのため優れたリーダーは部下に本領を発揮してもらうためにも自らの実態をさらすことになきよう、その言動に人一部注意払っているのです。韓非は「君主は何でも自分でしようとせず、出来るだけ臣下に任せるように」と提案しています。現代では部下に迷惑をかけずに自分が出来る事は出来るだけ自分でやるリーダーが優秀かつ誠実なリーダーだと認識している人が多いように思います。しかし、このようなリーダーは組織を崩壊させるのです。なぜでしょうか？知識や賢さ能力のあるリーダーほど仕事を自分で片付けようとし、部下の中には力不足なものもいて、リーダー自身が代わりにやる方が速いし成果も出るために、合理的に感じられる場面もあるでしょう。でもそれが続くと部下は自分が頑張らなくてもリーダーがやってくれるからと、それに甘えて努力しなくなります。それによりやがて成長もできなくなります。本当に優れたリーダーは決して自ら先に立たずに自分以外のものに任せ、モチベーションが上がり組織が活気づくように腐心(心を砕き苦勞し悩む)しているのです。」

と述べておられます。自分自身も気を付けなければなりせん社員諸君におかれても納得された方も多いと思います。自分の会得してきたナレッジ(会社にとって有益な経験、技術、情報)を若手・後輩にしっかりと伝え実践して、その価値を共有することが組織にとっても大切であることを先生は伝えてくださっています。